

自 己 評 価 表

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校
学校番号 (38-1)

教育方針	<p>(基本方針) 人格の完成を目指して、思いやりの心・向上する心・健やかな心を養い、21世紀をたくましく生きぬく、自主的精神に充ちた、心身ともに健康な生徒の育成に努める。</p> <p>(指導目標) 自己教育力の向上を目指して、基礎・基本の徹底を図り、生徒一人一人の自己実現を促す。</p>	重点目標	<p>(本年度の重点努力目標) 地域に根差した協働活動による自己改革力の育成 ～確かな歩みで着実な成果へ～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域に根ざした学校、地域に貢献できる学校を目指す。 2 個に応じた学習指導を徹底し、進路実現を図る。 3 自ら考え、協働しながら行動できる生徒の育成に取り組む。 4 教育活動を通して、健全な心と体を育てる。 5 清潔で美しい学校環境づくりに努める。 6 教育活動の公開と情報発信に積極的に取り組む。
-------------	--	-------------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校運営等	地域に根差した協働活動で自己改革力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒・教職員・保護者・地域住民が一体となった学校(人)づくりを進める。 ・生徒の地域へのボランティア活動参加100% A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:70%未満 ・笑顔で元気なあいさつ100% A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:70%未満 ・毎日教職員から声をかけられる生徒100% A:100% B:95%以上 C:90%以上 D:85%以上 E:85%未満 ・三瓶分校へ入学して良かった生徒、入学させて良かった保護者100% A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:70%未満 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・6割以上の生徒がボランティア活動に参加できた。 ・91.7%の生徒が笑顔で挨拶ができています。 ・97.2%の生徒が教員から毎日声をかけられている。 ・生徒も保護者も全員が三瓶分校に入学してよかったと回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でボランティア活動の要請が減少しているのは否めない。しかし、活動を通じて自己啓発や自らの成長につながることを指導しながら活動の機会を紹介していく。 ・円滑に人間関係を構築する第1歩となる挨拶を今年度同様これからも推進していく。 ・三瓶分校を選び入学してくれた生徒を一人一人大切に育てるために、情報共有を積極的に行いタイムリーに声かけを行っていく。 ・生徒数が減少していくが、魅力的な学校行事を地域、公営塾と協力しながら実践し満足の高い高校生活を提供していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事への保護者の参加率を高める。 ・保護者の学校行事への参加・協力100% A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:60%以上 E:60%未満 ○地域との協働に努める。 ・生徒・教職員の地域行事への積極的な参加 ・市や町、公営塾と協力体制の整備による三瓶分校の魅力化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・9割以上の保護者に学校行事へ参加・協力をしていただいた。 ・コロナ禍以前のように地域行事が完全復活していないが、復活したイベント、あるいは新しくできたイベントに関しては参加できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にとって興味関心のある講話やイベントの計画をPTA役員と協力して立てる。 ・学校の特色や魅力をアピールするためには今まで以上の地域の協力は必要となる。連絡を密にとり、情報を交換をしていく。
	時代に応じた教育活動(業務改善)	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に本校の情報を発信する。 ・HPをリアルタイムで更新する。 ・メディアを通しての積極的な魅力発信 ○教職員の多忙化を改善する。 ・時間外勤務の短縮 A:1か月あたり45時間以内 B:60時間以内 C:70時間以内 D:80時間以内 E:80時間超え 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新、メディアの活用はできている。 ・リラックスデイをほぼ月1回設け、定時退勤を推奨している。時間外勤務は1か月あたり45時間以内である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学校のPR活動の媒体として、HP、Instagram、メディアを適材適所に活用する。 ・個々のライフワークバランスを尊重しつつ、今後も業務を遂行していく。

※ 評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった) とする。

自 己 評 価 表

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校
学校番号 (38-1)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	個に応じた学習指導 -確かな学力の定着と向上-	○ICT機器の活用など、生徒の学習意欲と理解度を向上させる指導法の研究に取り組む。 ・生徒の授業満足度について A:100% B:99~80% C:79~60% D:59~40% E:40%未満	C	・授業アンケートで「授業の内容が理解できている」の評価が3.86ポイントで、昨年度より少し減少した。 ・ICT機器を活用して、円滑な授業展開及び生徒の理解度の向上につながる取り組みが見られた。	・生徒が学力を身に付けることを最重要視し、今後もICT機器を活用するなど、さらに生徒が興味・関心を持つ授業、分かりやすい授業を目指して、全教員が自己研鑽に努める。
		○生徒自ら学ぶ意欲を育てる。 ・家庭学習時間毎日2時間以上 ・毎日の課題と確認の徹底 ・生徒個々の学力と進路希望に応じた個別指導 ・スタディサブリの有効活用	B	・学習時間調査では、昨年度より40分程度増加し、少しずつではあるが良い方向に向いてきている。	・進路目標の実現のために何が必要かを認識させ、学習に対する意識の向上を図る。 ・適宜、課題を与えたり確認テストを実施して事後指導も徹底させることで、家庭学習の機会を与えるとともにそれをやり遂げることの重要性を認識させる。
		○アクティブラーニングを取り入れた授業の研究と実践を行う。 ・校外研修や他校視察を実施 ・ICTを活用した授業改善の実施	A	・宇和高校、野村高校と連携した遠隔授業も実施し、ICTを活用して生徒が活躍する場面を重視した授業が実践されてきている。 ・他校への学校訪問等、各研修に積極的に参加している。	・普段の授業でのICT機器の活用について、より効果的に活用できるように研究を重ねる。 ・さらに積極的に各研修に参加し、全教員が自己研鑽に努める。
生徒指導・特別指導	三瓶スピリットの育成と向上(思いやりの心、向上する心、健やかな心)	○部活動、ボランティア活動を通して確かな三瓶スピリットを育てる。 ・積極的にボランティア活動に参加をさせる。 A:33名以上 B:30名以上 C:22名以上 D:18名以上 E:18名未満(延べ人数)	A	・様々な学校行事を通して、思いやりや向上心を育成することができている。 ・地域の行事への参加等、積極的に参加できている。	・様々な地域への貢献ができるよう、生徒会や家庭クラブ、クラスへ地域の行事やイベント、学習会などを発信していき、活躍できる場を増やしていく。
	特別活動(部活動)の活性化	○生徒自身による自主的な学校行事、生徒会行事を推進する。 ・一人一役運動の推進と徹底 ・部活動加入100% ・各種大会・発表会等への参加、2回以上	A	・生徒数が少なく、一人何役もこなしながら、学校行事や生徒会活動に取り組んでいる。 ・部活動には全員が加入できている。 ・各種大会だけでなく、休日には練習試合や様々な活動を各部が実施しており、活動も活発になってきている。	・生徒数の減少によって、一部の生徒への負担が増加しないように、バランスのとれた役割配分に取り組む。
	安全・衛生指導の徹底	○安全指導の徹底を図る。 ・月1回、教職員による街頭指導を実施する。 ・手洗いや手指消毒の習慣化を図る。	A	・街頭指導の実施や日々の校門指導を通して安全指導を実施して来ている。また、自転車交通マナー向上対策事業を通して自転車のマナーアップにも取り組むことができた。 ・健康安全面への取り組みも日々呼びかけながら実施できた。	・安全指導の頻度は、十分に確保できているが、今後内容の充実を図るために、一人ひとりであった個別の安全指導に取り組む。 ・感染症対策等、生徒一人ひとりが積極的に自ら取り組んでいけるよう指導方法の研究をしていく。
	美しい学校環境づくり	○学校生活を通して、環境美化に対する意識を高める。 ・清掃活動以外の時間で、1日1回、学校美化に取り組む。 A:80% B:70%以上 C:60%以上 D:50%以上 E:50%未満	B	・少ない人数ながら、広い担当場所の美化活動を実施する中で十分とはいえないが、継続的な活動が実施できている。	・生徒が自主的に美化活動に取り組めるよう、日々の清掃時間の指導を効果的なものにしていく。

※ 評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった) とする。

自 己 評 価 表

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校
学校番号 (38-1)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	個に応じた進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員・保護者が一体となって進路指導を進め、進路を実現する力を養う。 ・志望校合格100%・就職内定100% A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:70%未満 ・スタディサブリの積極的活用 ・進路に関する三者面談の充実 ・在学中、各種検定一人一検定以上合格 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・早期に志望校合格100%、就職希望者内定100%を達成した。 ・夏季及び冬季休業中に年2回の保護者懇談(三者面談等)を実施できた。 ・スタディサブリの活用の仕方を変更し、到達度テストの個々の結果に合わせた課題を提示できた。 ・各種検定合格生徒(1年0%、2年68.8%、3年100%)だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校が一体となって進路指導の更なる充実に努める。 ・検定取得、資格取得意識の高揚を図る。 ・進路指導を全教員が共通認識を持って取り組む。
		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の進路意識向上のため1年次より適切な進路情報の提供や啓発を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の進路希望を理解し、オープンキャンパス情報等を適宜提供できた。各学年で進路に関するホームルーム活動が実施された。進路室内の資料を整理・充実させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考となるWebサイトの紹介や説明、ガイダンス等を行うことで、低学年から将来の進路デザインを構築できる活動を充実させる。
	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○職業指導や就業体験活動の充実を図り、望ましい職業観・勤労観を養う。 ・応募前職場見学・オープンキャンパスへの参加の促進 ・仕事体験学習やキャリア教育講演会等の実施 ・ハローワークとの連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年就職希望者は企業説明会や応募前職場見学を行い、受験先を決定した。 ・1年生は2学期に仕事体験学習を行った。 ・1・2年生対象に2学期に企業説明会、3学期に職業体験授業に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年からオープンキャンパス等への参加を積極的に支援する。
人権教育	人権学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○人権・同和教育HR活動の年3回実施や人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。 ○ハンセン病学習を通じて、感染症の差別の歴史を学び、コロナ禍での人のあり方について学ばせる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・同和教育HR活動は年3回実施でき、公開授業・講演会も実施できたが、コロナ禍で地域の方への案内ができなかった。 ・ハンセン病に関する掲示物や回復者への聞き書き、シンポジウムへの参加など多くの学習機会を設けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 三瓶支所の生活福祉課と連携して、地域の方への広報を行い、講演会等に参加してもらう。
		<ul style="list-style-type: none"> ○人権だよりを毎学期発行し、人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実させる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の啓発活動ができておらず、コロナ禍ということもあり、交流の機会をあまり設定できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏の人権委員会の学習会や交流会に積極的に参加させ、その内容等を集会で発表することで生徒主体の啓発をさせる。
	情報モラル教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○授業やホームルーム活動を通して、携帯電話やネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、講師等による講義は行っていないが、学校生活アンケート等で携帯電話によるトラブルはなかったと認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ネット上でのトラブルはないが、いつでも被害者・加害者になりうるため、日頃から生徒へ情報モラルを呼び掛ける。

※ 評価は5段階 (A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった) とする。

自 己 評 価 表

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校
学校番号 (38-1)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
現職教育	研修の充実	○ 考查中の校内研修が学習指導の妨げにならないように配慮するとともに、研修の内容がニーズにあったものになるよう工夫する。	C	・ 希望する研修内容について、アンケートを取り、ニーズに合った研修ができた。	・ 研修後にアンケートを取って感想や意見を聞き、よりニーズに合うような内容になるようにしていく。
		○ 公開授業で「授業の見どころ」を設定して研究授業としての役割を持たせ、授業の改善を図るとともに、参観者による授業評価の一助とする。 ○ 教員、訪問者の総授業参観数（授業の一部参観も含む）をチェックすることで、相互の授業研究を促し、授業改善に役立てる。 A: 50コマ以上 B: 40コマ以上 C: 30コマ以上 D: 20コマ以上 E: 20コマ未満 (公開授業1回あたり平均)	D	・ 公開授業は、第1回がコロナ禍で中止となったが、第2回から第5回までは、実施することができた。「授業の見どころ」を設定して研究授業として捉えてもらうようお願いしたが、声かけをしても、実際どの程度授業改善に貢献できているかが把握できていない。 ・ 公開授業1回あたりの総授業参観数は27コマだった。2学期の忙しい時期の公開授業は教員も他の授業を参観する余裕がなく、減ってしまうようだった。	・ 公開授業のために、どの程度授業の工夫を行ったか等を把握したり、他の教員の授業への感想を書いてもらうアンケートを取るなどして、研究授業としての役割をより明確にさせていく。 ・ 授業参観数については、教員はある程度定期的な変動は仕方ないと思うので、忙しくない時期の参観をより促したり、外部の参加者が増える工夫をしたりして、改善に努める。
保健・安全管理	保健活動の充実	○ 月1回、生徒の健康課題に沿った「保健だより」を発行し、保健指導の資料として活用する。	B	・ 月1回「保健だより」を発行し、ホームルーム担任に依頼し、保健指導資料として活用した。	・ 生徒の健康課題を的確に把握し、「保健だより」に反映させ、保健指導資料として効果的に活用する。
		○ 生徒保健委員会活動を充実させるため、健康に関する情報発信を校内放送等で行い、意識向上に努める。	B	・ 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの予防について、随時校内放送で注意喚起をした。 ・ 文化祭活動で、食育に関する展示を行い、食の大切さについて意識の高揚を図った。	・ 生徒保健委員会活動は、感染症の予防のみでなく、健康課題を把握し、個々が解決できるよう、校内放送や「保健だより」等を通じて充実させる。
	安全管理の徹底	○ 月1回の安全点検を実施し、安全管理の徹底を図る。	B	・ 月1回の安全点検を実施し、迅速な安全管理に努めた。	・ 月1回安全点検を実施し、必要箇所の速やかな修繕と、安全管理を推進する。
事務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	○ 分校化により本校と予算が一本になったため、本校と連携して予算を有効に活用する。	B	・ コピー用紙の購入や印刷物の製本を本校・分校まとめて行うことで、それぞれに行うよりも約50,000円の経費削減となり、予算を有効活用することができた。	・ 本校と連携しながら更なる経費節減に努め、教育活動への効果的な予算執行をする。
	環境整備と安全管理	○ 校内の修繕箇所の早期発見、早期対応を図る。	C	・ 安全点検や職員間の情報共有により、修繕箇所を把握し対応することとしている。急を要するもの、簡易なもの是对応できた。	・ 生徒及び教職員の安全を第一に考え、引き続き設備環境の向上に努める。
		○ 衛生的で美しい学校環境づくりに努める。	B	・ 樹木剪定及び除草作業が必要な時期に適切に実施できた。	・ より一層、美観を考慮して環境整備を行う。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。